



〈読者応募作品〉

四季の鳥・春 (キジ)

撮影 名執修二

キジ (雉) は日本の国鳥で多くの自治体で「市町村の鳥」に指定されるなど身近な鳥です。山地から平地の林、農耕地、河川敷などの明るい草地に生息していて、地上を歩きながら、主に草の種子、芽、葉などを食べますが、昆虫やクモなども食べるようです。繁殖期のオスは「ケーン」と大きな声で鳴いて縄張りを宣言します。この写真のように、両翼を広げて胴体にうちつけてブルブル羽音を立てる「ほろうち」という動作も見られます。繁殖期のオスは頭の赤が目立ち、体もいろんな色の羽で覆われていて、尾羽も長いので、とても美しい鳥で、さすが国鳥という品位も感じられます。それに較べて、メスは目立たない地味な色合いの茶色で、地面に浅く掘って枯れ草を敷いた巣を作り、子育てをします。卵は6~12個と多いので、羽化後の雛を数羽連れて歩いているところを見かけることもあります。毎年愛鳥週間などに各地で放鳥されているようですが、東京都ではレッドリストに登録されています。さいたま緑の森博物館周辺では、毎年ケーンという鳴き声を聞くことができます。

(緑の森倶楽部)



さいたま緑の森博物館

〇提携媒体

Trenchless International

## 目次

<b>3</b>	●写真速報 2018年度非開削技術講習会(東京・仙台)開催	
<b>4</b>	●NO-DIG 2019フィレンツェ国際会議・展示会のご案内	
<b>5</b>	●特集/小口径管路の非開削修繕・更生技術	
<b>6</b>	●特集のねらい	積水化学工業㈱(本誌編集委員) 橋本 好弘
<b>6</b>	・総論 新時代に求められる下水道事業マネジメント	国土交通省水管理・国土保全局下水道部下水道事業課事業マネジメント推進室長 那須 基
<b>10</b>	・総論 (一社)管路診断コンサルタント協会の活動と取り組み	目標耐用年数の延伸に資する下水道管きよ修繕技術の適用と期待する効果
<b>14</b>	・総論 (一社)日本管路更生工法品質確保協会の活動と取り組み	見えない管路に見える品質を
<b>18</b>	・老朽化した電力管をリニューアルするSEライナー工法	(一社)日本管路更生工法品質確保協会 松本 勝
<b>25</b>	・内面の滑らかな仕上がりが特徴の小口径向けオールライナーZ工法	積水化学工業㈱滋賀栗東工場技術部更生管技術課 上道 司
<b>29</b>	・半世紀以上の実績を持つ硬質塩ビで管更生! 小口径対応「EX工法」(熱形成タイプ)	オールライナー協会 増田 智也
<b>35</b>	・インシチュフォーム工法の高強度材料、INS-GL工法による長距離施工について	EX・ダンビー協会技術部長 宮川 恒夫
<b>40</b>	・老朽化した下水道管きよの延命化に貢献 FRP内面補強工法	日本インシチュフォーム協会技術員(中口コプロ㈱) 松本 丈詞
<b>48</b>	●会員談話室 夢中で頑張っていたあの時	FRP工法協会事務局長 近藤 昌司
<b>50</b>	●海外イベント報告 第3回水業国際大講堂フォーラムの参加報告	(公財)日本下水道新技術機構技術評価部長 宮入 篤
<b>53</b>	●国内イベント報告 2018年度 非開削技術講習会 東京(六本木) 宮城(仙台)	(一社)日本非開削技術協会事務局長 角川 順洋
<b>55</b>	●知って得する身近な・Science [追悼再掲載] 大和武尊と白熊と	西尾 宣明
<b>64</b>	●UP DATE	
<b>65</b>	●Back Number	
<b>67</b>	●新入会員の紹介 静岡県下水道技術研究会/㈱シミュレーション・テクノロジー	
<b>69</b>	●委員会	
<b>70</b>	●編集後記	㈱三水コンサルタント(本誌編集委員) 長島 隆幸

※特集および投稿記事は、著者の責任において執筆された記事であり、必ずしも日本非開削技術協会の見解ではありません。  
※技術記事などにはキーワードを付与しています。これによりJSTTホームページでの検索ができます。

表紙の写真: 郊外の古い石造りの家が並ぶ町並み(イギリス)  
ISTTの本部があるロンドンの西方にあるコッツウォルドの丘陵地帯。写真はここにある小さな田舎町の一つです。はちみつ色のライムストーン(石灰岩)の古い石造りの家が並ぶ町並みののんびりとした雰囲気は癒やされます。